



いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動

“いのちをまもるパートナーズ” 医療安全全国フォーラム2018

2018年11月23日（金） 会場：名古屋国際会議場 白鳥ホール

テーマ：現場から吹き始める新しい医療安全の風

◆ プログラム ◆

（敬称略）

第1部 基調講演

13:00～14:20

■13:00 開会挨拶 高久 史磨（一般社団法人 医療安全全国共同行動 議長）

〔総合司会〕 飯島 久子（医療安全全国共同行動 技術支援部会委員）

■13:05 基調講演「医療安全の新展開：レジリエンス・エンジニアリング」

〔講師〕 中島 和江（大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部 教授）

〔座長〕 小泉 俊三（一般社団法人 医療安全全国共同行動 専務理事）

【講演要旨】

これまでの医療安全は、有害事象を減らすことを目的として、「失敗事例」を学習の対象とし、特定された原因に対して安全対策を講じることが中心であった。近年、レジリエンス・エンジニアリングと呼ばれる新しい安全へのアプローチが注目されている。これは、複雑適応系である医療システムが、変動し続ける環境において、さまざまな制約のもとで柔軟に対応できているメカニズムを解明し、またそのレジリエンス特性（柔軟性や適応力）を利用し、「物事がうまく行われる」ようにしようとするものである。本講演では、レジリエンス・エンジニアリング理論の概要と、本理論をふまえた手術チームメンバーの会話分析、救命救急チームメンバーの適応的対応の機序、腹膜透析患者及び家族によるワールドカフェを通じた peer-to-peer 学習の効果について紹介する。

〈講師プロフィール〉

神戸女子薬科大学薬学部及び大阪大学医学部卒業後、フルブライト奨学生としてハーバード公衆衛生大学院修士課程卒業。大阪大学医学部附属病院第二内科、市立豊中病院内科、ハーバードリスクマネジメントファンデーションを経て、2001年大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部の設立に携わり、07年より部長、16年より教授。国内外の学術集会等で招待講演多数。12年「科研費」審査委員表彰、第8回日本 e-learning 大賞厚生労働大臣賞等を受賞。医学博士。

■14:05 質疑応答

■14:35 シンポジウム「患者の視点に立って医療安全を考える」

患者の視点とは何か、どうすることなのか、医療者にとって、また組織にとっての取り組み方等々について演者の方のお話をもとに、医療安全について議論を進めていきます。

[座長] 長谷川 剛（上尾中央総合病院 情報管理特任副院長）

[シンポジスト]

・「患者の視点に立って医療安全を考える」

長谷川 剛（上尾中央総合病院 情報管理特任副院長）：医師

・「患者の視点に立って医療安全を考える

～ 医療事故の経験から伝えたいこと ～

高山 詩穂（患者・家族と医療をつなぐNPO法人 架け橋 理事）：看護師

・「患者の視点に立って医療安全を考える

～ 患者遺族と医療対話推進者の立場から ～

豊田 郁子（イムスリハビリテーションセンター東京葛飾病院 医療安全対策室、

患者・家族と医療をつなぐNPO法人 架け橋 理事長）：医療対話推進者、患者遺族

■15:55 ディスカッション

■16:55 閉会挨拶

小泉 俊三（一般社団法人 医療安全全国共同行動 専務理事）

主催：（一社）医療安全全国共同行動